

ゴンドラ

No.20

ハンソンペクチェ 漢城百済博物館を訪問

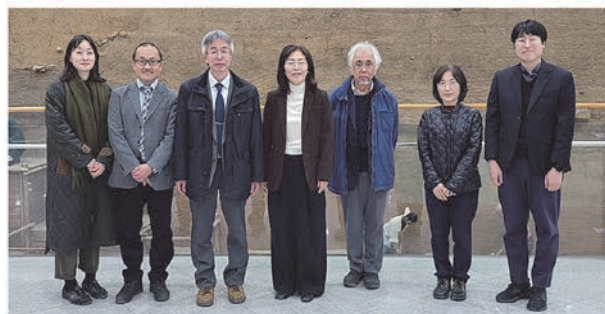
2023年12月6日、当館の安村館長と山根学芸員の2名は、仁川国際空港に降り立ちました。関西国際空港から約2時間での到着で、韓国は本当に近い国だと実感します。仁川国際空港からは、バスで約1時間半でソウル市の中心地へ到着しました。12月としては異例の暖かさで、気温は10℃以上と過ごしやすい気候でした。目指すは、ソウル市松坡区にある漢城百済博物館です。

当館と漢城百済博物館との交流は2022年5月に始まり、同年11月には、同館館長、学芸員らの訪問を受け、本市の市長、副市長、教育長とも意見を交わし、柏原市内の遺跡も案内しました（詳しくはゴンドラ19）。2023年4月に漢城百済博物館の館長が代わったという連絡もあり、今回はこちらから韓国を訪問し、直接ご挨拶するとともに、今後の計画を話し合うことが訪問の目的です。

翌日の7日に同館を訪れ、終始なごやかな雰囲気の中、金志娟新館長との面談では、柏原市をはじめとした国際交流に対する熱意を感じました。今後も学芸員同士の交流はもちろん、両館の資料の貸し借りも視野に入れながら、長期的に交流を進めていくという方向性で一致しました。面談後、同館の研究所によるソクチョンドン、ムソンドソン、夢村土城跡の発掘現場も案内いただき、非常に有意義な訪問となりました。8日～10日は、柏原市と関連する百済の遺跡や博物館がある益山、公州、清州を訪れ、11日に帰国しました。

今回の訪問の感想は多々ありますが、ひとつ印象的だったのは韓国の歴史に対する姿勢です。公立の博物館はすべて入館無料で、子供向けの別施設または特別コーナーが必ずと言っていいほど併設されています。最新のVRなどを取り入れた設備も充実していて、実際にたくさんの子供たちが見学していました。漢城百済博物館との交流を通じて、幅広い世代に来館してもらうための工夫やヒントも共有できればと思います。

遺跡や博物館の見学にあたり、ソウルでは大竹弘之氏、朱洪奎氏、益山と公州では朴宰用氏に、大変なご支援を賜りました。心より感謝申し上げます。



漢城百済博物館にて

左から：鄭ダウム氏（研究員）、山根、安村、金志娟氏（館長）、大竹弘之氏、曹瑛焄氏（展示課長）、白侏楠氏（学芸士）

企画展のご案内

◎令和5年度春季企画展「古墳から古代へー激動の柏原ー」

令和6年3月23日～6月9日

古墳時代が終わりを迎え古代へと時代が移り変わっていく中、当時の柏原市域ではどんな変化が起きていたかを発掘調査で分かった古墳や集落の様子から考える展示です。

お知らせ

◎講座

館長と学ぶ柏原の歴史講座【参加費：200円、申込み：不要（先着順）、定員：90名】

当館刊行の『柏原の歴史』をテキストに、安村俊史館長による柏原の歴史についての講座です。

◆毎月第4土曜日 13:30～15:00（会場：当館 研修室）

※開催日時が変更になる場合があります。詳しい内容については、ホームページ、広報などでお知らせいたします。

◎オンラインイベント

ビジュアルヒストリーガイド in 柏原【参加費：無料、申込み：不要】

市内の遺跡の様子をリポーターが現地から中継し、学芸員が資料館にて遺跡や出土資料の解説をします。パソコンやスマホさえあれば、ご自宅やお好きな場所から、誰でも自由にご参加いただけます。

◆毎月（3・4・8・12月を除く）最終月曜日 14:00～15:00

【参加方法】

①あらかじめ右の2次元コードを読み込み、ZOOMをダウンロード、およびインストールしておいてください。

②開始10分前になりましたら、再度、2次元コードを読み込んでください。

※ZOOM利用時の通信料は、各参加者のご負担となります。ご参加に際しては、Wi-Fi環境下での通信をお勧めいたします。



刊行物

・安福寺文書目録Ⅰ〔柏原市古文書調査報告書第18集〕500円…玉手町に所在する安福寺所蔵の古文書の調査報告書です。柏原市を代表する名刹の一つである安福寺および江戸時代の僧侶である珂憶上人かおくに関する資料を収録しています。

・『柏原市立歴史資料館 館報35号』500円…令和4年度における当館の活動報告のほか、調査・研究報告として、スコット・ライオンズ氏による「大県遺跡の鍛冶遺構の再検討」などを収録しています。

企画展を終えて

★令和4年度冬季企画展「柏原の明治時代－暮らし・学び・ぶどうづくり－」

令和5年1月7日～3月5日 見学者数 1,866人（個人 1,214人、団体 652人）

★令和4年度春季企画展「百済の王族が眠る？ 高井田山古墳」

令和5年3月25日～6月11日 見学者数 4,097人（個人 3,705人、団体 392人）

★令和5年度夏季企画展

「玉手山安福寺と徳川家－ある奇縁－」

令和5年7月1日～8月27日

見学者数 2,107人（個人 2,029人、団体 78人）

★令和5年度秋季企画展

「大和川のつけかえ－つけかえしないと決めてから－」

令和5年9月12日～11月26日

見学者数 6,822人（個人 1,804人、団体 5,018人）



夏季企画展のようす

歴史資料館設備がリニューアル

当館は1992年の11月7日にオープンし、2022年にはおかげさまで開館30年を迎えることができました。学芸員も世代交代が進み、今後より一層充実した研究、展示を進めていきたいと思いますが、一方で館内設備の老朽化が深刻な問題となっていました。

博物館などの空調設備は、一般的な建物の空調と異なり、資料保護のため温度だけでなく、湿度も一定に保たれるよう設定されています。特に紙などの文書や木製品といった有機物は、温湿度の変化に敏感です。当館1階にある収蔵庫の温湿度は比較的安定していましたが、2階展示室は夏場に空調が止まるなどのトラブルが起きていました。その都度、修理していたものの、設置から30年以上が経過し、すでに修理用部品がない状況です。

設備の改修方法について検討を重ねたところ、空調とあわせてLED照明への省エネ化をすることで、改修費用の一部を国土交通省が負担する補助事業の実施が決まりました。改修は館内全体に及ぶため、2023年11月27日～2024年1月12日まで臨時休館となりました。例年より秋季企画展が短くなるなど、休館中、利用者みなさまにはご迷惑をおかけしましたが、改修工事は無事終了しました。気づきにくいかもしれませんが、館内の窓が複層ガラスになったことで、保温性、断熱性がアップし、また全ての照明が改修されたことで、一部暗かった場所も明るくなっています。これからは来館者だけでなく、資料にとっても快適な環境にて、展示、講演会を楽しんでもらえれば幸いです。



新しくなった館内照明

館長と学ぶ柏原の歴史講座の開催

令和4年から毎年1冊ずつ、全5巻の予定で『柏原の歴史』を刊行しています。『柏原市史』が刊行されてから50年以上が経過し、『市史』に代わる冊子が求められていたことから刊行することになりました。カラー写真や図を多用し、柏原の歴史をわかりやすくコンパクトにまとめた冊子です。これまでに1・旧石器～弥生時代（500円）、2・古墳時代（1,000円）を刊行し、令和6年4月に第3巻として、飛鳥・奈良時代を刊行します。

この『柏原の歴史』をテキストとして、柏原の歴史について館長と学ぶ講座を令和6年1月から開催しています。『柏原の歴史』の内容について、少しでも多くの方に知っていただき、歴史に関心をもっていたいただきたいという思いで実施することにしたものです。紹介する資料は柏原のものが中心になりますが、歴史の入門講座としてもご利用いただけるようにしています。また、『柏原の歴史』は当館で販売しておりますが、テキストがなくても聴講いただける内容にしていますので、気になるテーマの回を1回のみ聴講するのも大歓迎です。4月以降は、「弥生時代の柏原」、「邪馬台国の時代の柏原」、「古墳の出現と柏原」などのテーマを予定しています。例えば「弥生時代の柏原」では、弥生時代とはどんな時代だったのか、弥生時代の柏原はどんな様子だったのか、人々はどんな暮らしをしていたのか、などをわかりやすくお話させていただき、みなさんと一緒に、弥生時代の柏原について考えてみたいと思います。

館長と学ぶ講座は、これまでに「大和川講座」「河内の古道講座」を、合計60回以上実施してきました。「柏原の歴史講座」は第3弾となります。みなさんもお気軽にお越しください。



第1回 館長と学ぶ柏原の歴史講座

ひとこと

館内の照明について、不具合があった所も全てLEDになり、館内の雰囲気が文字通り明るくなりました。同じものでも、照明次第で「見え方」が変わるとするのは、「見せ方」が重要な学芸員にとって大切なことだと再認識しました。より一層、見やすい、分かりやすい展示を心がけていきたいと思っています。(W.Y.)



柏原市立歴史資料館

休館日 月曜日（祝日は開館）、年末・年始

開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

入館料 無料

ホームページ2次元コード

〒582-0015 大阪府柏原市高井田1598-1 TEL:072-976-3430